

文教福祉

8月16日 協議会開催

平成26年度から放課後子ども教室は児童クラブに編入し、児童クラブに一本化する。所管課は、住民こども部こども課とする。

Q 新たな施設を造る考えは。

A 施設の十分にないので今後考える。

Q 一本化で国の補助金は、年額250万円減額。

**地域密着型
サービス業者決定**

介護保険事業計画に基づき、介護保険サービスの充実を図るため地域密着型サービス整備・運営事業者を募集した。

2事業者が応募し、選考委員会の中で審査がおこな

放課後対策事業を 一本化

われ「医療法人、翔友会」を選考した。開所予定は平成26年4月初旬。

Q 選考委員会の委員は、岡崎医師会代表、介護専門学校教授など5人。

Q 医療法人、翔友会の事業所運営実績は。

A 町内で、グループホームあり。岡崎市内で、せん姫とかぐや姫を運営。



楽しい児童クラブ（豊坂小学校）

7月22・23日 東京都町田市、杉並区を視察

町田市

子どもセンター「つるっこ」

0歳から18歳までの子どもが自由に遊べる施設。

主役は子どもたちであり子ども委員会がつくられ複

子どもセンター などを視察

数の小学校、中学校の子どもたちで構成されている。

行事の企画、準備、運営などを通してみんなが仲良く

和やかで、チームワーク良く活動している。

乳幼児は、保護者同伴で来館している。

杉並区

子ども発達センター

就学前の心身の発達に心配がある子どもと保護者を

支援する施設。

事業内容は、相談通園グループ指導・言語心理指導・リハビリテーション・訪問

支援・研修・講演会などがある。利用登録者の増加に

より民間事業所と協力した支援体制の構築をすすめた。

通園希望者の増加と、医療的ケアが必要な重度障がい児への対応などの課題も

多くなってきたのが現状である。



子どもセンター「つるっこ」

平成 24 年度 清掃事業

産業建設



道の駅 筆柿の里・幸田

8月19日 協議会開催

Q 集団回収量が減少している理由は。

A 雑誌、新聞紙などの紙類が減少している。

Q 可燃ごみが多くなっているが、紙類が含まれているのではないか。

A 本年度、組成分析調査を予定している。

Q 町の清掃事業は、良い方向ですんでいるが、町民に届いていないのではないか。

A 児童向け環境学習会や各種団体向け出前講座や

広報などでのアピールも考えていく。

筆柿の里・幸田の中間評価

Q 利用者満足度調査を活用したか。

A 道の駅アンケート用紙の分析でおこなう。

Q 内部のみの評価だが外部評価は検討したか。

A 指定管理者選考委員会で審議。

Q 委員会のメンバーは、町長以下全員で9人。

役場職員4人、外部の知識人4人で構成。

7月8・9日、栃木県足利市、群馬県渋川市を視察

足利市

再生可能

エネルギー活用事業

継続的な節電・省エネ策を取組む中で、市民総発電所構想が生まれ関連事業を推進していく中で、スマートシティをめざし事業を展開している。

エコの町である本町も屋根貸し事業、売電収入に力を入れていく余地は十分にあるので、事業展開検討が求められる。

渋川市

竹林整備事業

高齢化、後継者不足から手入れができなくなった竹藪が多くなっている現状で竹をチップ化して回収することで人力作業が省略でき、積み込み、運搬、荷降ろしが容易になっていた。

「創電・節電・蓄電」

事業を視察



竹のチップ化作業

なお、チップ化した物は土地改良材、キノコ菌床、堆肥の原料、さらに炭化し脱臭剤などに利用していた。今後、本町においても竹

専用の自走式破砕機の購入など、竹林整備を早急に検討していかなければならない。

総務

8月20日 協議会開催

平成26年6月29日に幸田町と豊坂村の合併60周年記念事業をおこなう。

幸田町合併 60周年記念事業

A Q 記念事業の内容は。

60周年の記念要覧の発行、新しい歌をつくりイベントの一つとして取り

組む。

Q 政策的な大きなものがあってもよいと思うが。

A 今回は60周年の区切りとしてのイベントである。今後第6次総合計画に盛り込んでいくような事業は、これを機に考えていく。

企業立地マスタープラン

策定委員会結果報告

Q 拡大工業地区の土地利用規制は考慮しているのか。企業の優先順位、規模などの考えは。

A 都市計画マスタープランで11カ所の拡大地区が示され、今後3カ所の選定区域を決めていきたい。

Q 農業関係者の理解など問題はないか。

A 3カ所以外となった地区のサポートも考えていく。



建物移転がすすむBブロック

総合開発

幸田町駅前 土地区画整理事業

7月5日 現地視察

幸田町駅前土地区画整理事業の進捗状況を確認するため、現地視察をおこなった。

A Q 事業の進捗状況は。

平成18年に事業計画を決定し、平成27年度までの施工期間を予定している。区域内の建物移転は77.5%が完了している。事業費では26億1000万円であり、49.9%となる。

A Q 今年度の事業予定は。高度利用区域(Bブロック)の建物移転、土地の整備をすすめる。

特別委員会レポート

防災対策

西三河9市1町 災害時応援協定

8月7日 協議会開催

7月3日、西三河9市1町で災害時相互応援協定を締結。

Q 西三河9市1町との協定だが、すでに県外4市町と協定している。被災時、多くの支援が入ってくる。混乱する。

A 大災害時、道路、鉄道が機能するか。まずは、近隣との相互応援が有効。

Q 各市町で災害の表れ方は違う。各市町が被災の取り組みをすべきだ。

A 各市町で耐震化や家具などの転倒防止に取り組んでいる。

A Q 9市1町のリーダーは。リーダーは決めている。

分かりやすい 日本語で表現する

議会広報



全国町村議会広報研修会場

第78回全国町村 議会広報研修会

- 7月29・30日、東京千代田区砂防会館で開催された。
- ① 分かりやすく、ふさわしい日本語で表現
 - ② 広報紙面デザインの基礎知識
 - ③ 写真の撮影・表現方法
 - ④ 議会広報クリニック

専門の講師による研修を受けた。
文章は短く要領よく、結論から先、役所言葉は使わない。見出しは、分かりやすい日本語、正しい日本語、ふさわしい日本語で表現することで、読みたくなる広報誌となる。
視線の流れを意識したレイアウト、テーマに合わせた

写真で情報を分かりやすく伝える工夫。
町の活性化を表現するため、青年や家族連れに登場してもうなご、これからの議会だより編集に生かしていきたい。

第27回愛知県町村 議会広報研修会

8月6日、アイリス愛知で開催された。

広報コンサルタント深沢徹氏による「議会広報に求められるものは？ありのままに、分かりやすく、住民とともに」の講演と2市3町の議会広報クリニックがおこなわれた。

本町の議会広報は、講評としては「内容・技術ともに第一級の議会広報」とのうれしい言葉もいただいた。表紙のもくじの入れ方、Q&Aの書体の使い分けなどが今後の課題となった。



議会報告会推進会議

委員長 大嶽 弘
副委員長 浅井武光
委員 伊藤宗次 丸山千代子
笹野康男 水野千代子
酒向弘康 都築一三
中根久治 鈴木雅史
志賀恒男

幸田町第6次 総合計画策定特別委員会 (定数 15 人)

委員長 杉浦あきら
副委員長 都築一三
委員 浅井武光 伊藤宗次 丸山千代子
内田 等 笹野康男 夏目一成
水野千代子 酒向弘康 池田久男
中根久治 鈴木雅史 志賀恒男
中根秋男